

キリシタン大名サミット

日時：6月2日(土)～3日(日) 場所：北有馬ピロティー文化センター日野江

戦国時代にタイムスリップ！九州の4キリシタン大名が集結

記念公演



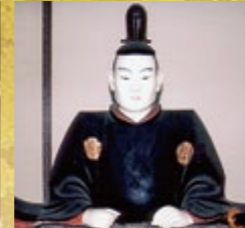
秀吉時代の中央官僚
小西行長
五野井 隆史氏
(東京大学名誉教授)



キリシタン王国を作った男
大友宗麟
玉永 光洋氏
(大分市教育委員会
文化財課 特別顧問)



長崎を開港した男
大村純忠
稲富 裕和氏
(大村市市史編纂室長)



セミナリヨを誘致した男
有馬晴信
レンゾ・デルカ氏
(日本二十六聖人記念館長)

高祖 敏明氏
(上智大学 理事長)



6月2日(土)

- 13:00 開場
- 13:30 開会 主催者あいさつ
- 13:50 有馬家の略歴 画像解説
有馬家第27代 有馬匡澄氏 紹介
- 14:00 上智学院理事長 高祖敏明氏 講演
- 15:10 朗読劇(400年前の西洋音楽再現)
ローマとのライブ 中継
- 15:30 キリシタン大名サミット
(九州の4キリシタン大名によるサミット)
- 17:00 日野江城・セミナリヨ常設展示場公開
- 19:30 セミナリヨの生徒たちが見た原風景
大手川のホタルの乱舞見学

6月3日(日)

- 8:30 受付
- 9:00 遠藤周作とセミナリヨ関係者の証言
- 9:20 日野江の城下町・有馬のセミナリヨガイド
遠藤周作が歩いた道と日野江城跡ガイド
- 11:00 解散
有馬晴信供養(自由参加)

戦国時代の地域リーダーたち

打ち寄せる国際化の波、地方分権、熾烈な地域間競争など多くの問題を抱える現代の地方自治体。実は400年前の戦国の世に島原半島を治めていたキリシタン大名 有馬晴信の時代も現代に近い状況に置かれていました。むしろ戦乱に明け暮れ、いつ何時、滅亡にさらされかねない戦国時代を、ときにはダイナミックに、ときには巧みな戦略で切り抜け、さらには海外との国際交易で領土繁栄につなげていった地方のリーダーたちがいました。九州を中心としたキリシタン大名たちです。

九州のキリシタン大名を顕彰

平成24年6月5日はキリシタン大名で日野江城主 有馬晴信の没後400年を迎えます。有馬晴信は戦国時代、セミナリヨの誘致、海外交易、天正遣欧少年使節派遣など、数々の偉業を達成してきました。

南島原市では有馬晴信をはじめとするキリシタン大名サミットを開催します。今回、400年前の戦国時代のトップがどのようにして地方の小国を守り、維持・発展させようとしたのかをテーマとして九州各地の郷土の誇りとして顕彰します。

- ① 400年前のセミナリヨ授業体験
 - 日時/6月16日(土)～17日(日)
 - 1泊2日
 - 場所/願心寺
(南島原市北有馬町谷川)
 - 参加費/1人：2,000円
 - 対象/市内中学生：11人
全国公募：11人
 - 申込/5月31日(木)までに中学校配布の申込書と400字詰め原稿用紙2枚の作文を添付して所属の中学校へ提出してください。
 - 主管/有馬歴史研究会
- ② ポルトガル・イタリア派遣
 - 時期/8月2日出発予定
 - 日程/9泊10日
 - 訪問地/ポルトガル・イタリア
 - 派遣団員/セミナリヨ授業体験受講者の中から選考で市内中学生4人、全国公募中学生4人
 - 費用/6万円程度



してヨーロッパに日本人の存在を知らしめました。今年、口之津開港450年記念事業として、ポルトガル・イタリアへの訪問団を派遣することとなりました。派遣団は市内中学生をはじめ全国公募の中学生8人と一般団員で構成。

② ポルトガル・イタリア派遣

1582年2月長崎港を出発した南蛮船に乗り込み、日本で初めてのヨーロッパ派遣団天正遣欧少年使節がローマを目指しました。4人の少年たちは、有馬の晴信、大村純忠、大友宗麟の名代と

コラム 口之津開港

450年

—— 口之津港の壮大な歴史をたどる ——

子どもたちにもわかるよう「ふりがな」「簡単な言葉」で紹介しています。CHAPTER.3

巡察師 ヴァリニャーノ 口之津に入港

口之津歴史民俗資料館館長 原田 建夫



ヴァリニャーノ肖像
大村市松田毅一南蛮文庫

キリスト教イエズス会の中で、巡察師(※1)という重要な役割を持ったヴァリニャーノが、日本のキリスト教布教の様子を視察するため口之津に上陸しました。口之津開港から17年後の1579年7月25日のことです。当時、アルメイダ、トルレス、フロイス、カブラルなど日本にたくさん来ていた宣教師の中で、ヴァリニャーノは「日本人は礼儀正しく、理解力に優れている」と日本人を高く評価し、「日本人の教育」を大切にしました。そこでヴァリニャーノは口之津に全国の宣教師を集めて会議をし、有馬にセミナリヨと

いう日本人青少年のための神学校を開きました。また、1582年、ヴァリニャーノは有馬のセミナリヨで教育を受けた12～13歳の千々石ミゲル、伊東マンシヨ、原マルチノ、中浦ジュリアンの4人の少年をヨーロッパへ派遣しました。これを「天正遣欧少年使節」といいます。日本の少年をヨーロッパに派遣した目的は何だったのでしょうか。第一にヨーロッパを直接体験させて、そのことを日本人に知らせる。第二に、キリスト教がどういうものか日本人に知らせる。第三に、キリスト教の最高指導者に合わせて教皇の思いを伝え、日本での布教を進めようと考えたのでしょうか。

ポルトガル、スペイン、イタリアなどで大歓迎を受けた少年たちの心の中は驚きの連続ではなかっただろうか。4人の少年と一緒に行動したドロードは印刷技術を学び、加津佐で日本初の活版印刷をしました。少年たちは、大阪城で豊臣秀吉に会い、歓迎され、西洋楽器での演奏もしました。4人の少年のうち、千々石ミゲルはまもなくキリスト教を捨て、伊東マンシヨは長崎で病死、原マルチノはマカオに追放され、そこで亡くなりました。中浦ジュリアンは、1614年から10年間口之津に隠れ住み、布教を続けました。しかし小倉で捕まり、刑により殉教しました。ヴァリニャーノは口之津に來航した後、二回日本にやってきて、数々の業績を残しました。日本の教会史上、最も重要で影響力の大きかった人です。

① 400年前のセミナリヨの授業を体験!

有馬のセミナリヨ授業再現事業



織田信長により日本が天下統一されようとしていた1580年。南島原市に日本で初めてイエズス会の中等教育機関「有馬のセミナリヨ」が創立されました。有馬のセミナリヨではヨーロッパの教育方式が採用され、当時の日本人では想像もつかないような教育が行われていたことが、遠くローマに報告されています。セミナリヨの日課表により400年前の戦国時代、南島原で日本人が初めて体験したセミナリヨの授業を再現することしました。

* 今年、受講生の中から8人をポルトガル・イタリアに派遣する団員選考も兼ねています。